

白石市文化財調査報告書 第31集

市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ

平成20年3月

白石市教育委員会

例　　言

1. 本書は、白石市教育委員会が平成18年度及び19年度に実施した市内遺跡発掘調査事業にかかる調査結果報告である。なお本事業は市単独経費及び一部事業主負担で実施した。市経費は2,305千円（18年度、過去の調査資料整理を含む）、1,779千円（19年度同）である。
2. 土層の色調表記については、『新版標準土色帖』（小山・竹原、1996）を用いた。地図は白石市土地情報提供GISを用いた。
3. 検出遺構の略号は以下の通りである。

S I : 積穴住居跡　SD : 溝跡　SK : 土壌　P : 柱穴

4. 本事業の調査の実施は宮城県白石市教育委員会社会教育課 津田優佳・日下和寿（平成18年度）、日下和寿・櫻井和人（19年度）が担当した。報告書本文執筆は日下が担当した。ただし17頁～20頁に関しては佐藤敏幸氏が執筆作成した。資料整理は家納久美、岡部とき子、後藤美砂緒、引地ゆかり、平間智恵、濱中一進、服部友里子、佐藤里栄があたった。
5. 発掘調査の実施、報告書作成等にあたっては、宮城県教育庁文化財保護課をはじめとする次の機関・方々から多大なご協力をいただいた（敬称略）。

土師器、須恵器	菅原祥夫（宮城県考古学会々員）、石本弘（白石市文化財保護委員）
	佐藤敏幸（宮城県考古学会々員）
中世陶器	千葉孝弥（多賀城市埋蔵文化財調査センター）
近世陶磁器	佐藤　洋（仙台市教育委員会）
発掘調査	石本弘、山崎夫妻、上野雄規夫妻
石器	村田弘之（東北大学院文学研究科）、傳田隆（東北大学文学部）
	宮城県大河原土木事務所、高橋建設株式会社、（株）遊佐組、各地権者、事業主
6. 調査全般に指導いただいた故中橋彰吾白石市文化財保護委員長に哀悼の意を表する。
7. 本事業の記録及び出土品は、白石市教育委員会社会教育課が保管しており、求めに応じて公開している。

第1章 平成18年度及び19年度における埋蔵文化財調査概要

平成18年度及び19年度における市内の確認調査及び工事立会等箇所は第1表にまとめた。この2ヶ年度では発掘調査（事前調査）2件、確認調査18件、工事立会60件となっている。

農地転用、地下の埋蔵文化財に影響がある各種事業に関しては、事前に確認調査及び発掘調査を実施している。掘削深度が浅い等の理由で埋蔵文化財に影響が少ないと、過去の工事によって埋蔵文化財が既に破壊された箇所と考えられた箇所については工事立会としている。また下水道工事では、掘削範囲が狭小であることから、原則として工事立会としている。

平成18年度は確認調査を6件実施したものの、うち5件は遺構、遺物とも全く確認されなかつた。事前調査は1件であった。15番の前山遺跡の工事立会では、土師器2片が出土した。

平成19年度は確認調査を10件実施した。うち2件では、遺構、遺物とも発見されなかつた。遺構が確認された箇所は全て、遺構面に掘削が及ぼない工事を実施することになっており、確認調査で終了となっている。41番の白石城跡では、5カ所のトレンチは旧法務局時代の基礎工事によって大きく搅乱された箇所であることが判明した。45番の本郷遺跡では、2カ所のトレンチを設定したが、上層部分に搅乱があり、下層からも遺構、遺物は確認されなかつた。49番の田中遺跡ではトレンチを1箇所設け、良好な土層を確認したが、遺構は確認されず、基本層位第4層から土師器、第1層から剥片、文久通宝が出土したのみであった。58番の祢宜内遺跡では、3カ所のトレンチを設定し、遺構は確認されなかつた。表土から近世陶磁器、土師器が発見されたものの、砂礫層が堆積している状況が判明した。肥前産の筒茶碗、雷文（18世紀？）、產地不明の染付瓶（近代？）、肥前産染付瓶類、近世、肥前染付椀（18世紀以降）と推定されるものが出土した。74番の大畑遺跡では、4ヶ所のトレンチを設定し、確認調査を実施したが、T4以外では砂礫層が堆積していた。T4では七師器片2点が出土した。42番の観音崎遺跡では工事立会で、盛土中から土師器2点が出土した。59番の湯ノ口遺跡では、良好な土層が確認できたものの、土師器片が若干出土したのみであった。72番の大畑遺跡では、掘削された土から在地産中世陶器（鎌倉期）、肥前産染付筒茶碗（18世紀）、同染付椀、婧唐草（18世紀代）、同皿（江戸時代）、同椀（江戸時代）、大堀相馬、鉄絵土瓶？（19世紀前半）、青花？椀？（17世紀前半？）、土師器、須恵器が出土した。77番の大畑遺跡では表土から、小野相馬産椀？淡青色釉（18世紀代）、瀬戸？鉄釉椀か鉢、岸窯？鉄釉撥鉢（17世紀？）が出土した。78番の本館跡では、現地確認時に縄文時代前期土器が採取された。

遺構、遺物が確認された調査については次章で報告する。また坂端道路改良工事に伴う発掘調査（和尚堂遺跡、宮下遺跡、白石条里制跡推定地）は別途報告予定である。

第1表 平成18年度及び19年度 埋蔵文化財調査一覧

No.	遺跡名	遺跡番号/対応内容	所在地	調査要因	調査期間	
1	柄下遺跡	02182 工事立会	白川大卒都婆 14 の 1	店舗建設	平成18年4月10日	
2	中屋敷陣屋跡	02248 工事立会	大平森合字北中屋敷	ガスパイプライン敷設工事	平成18年4月24日、5月11日	
3	大畠遺跡	02262 工事立会	宇東大畠 51 の 1	個人住宅建設	平成18年5月1日	
4	大畠遺跡	02262 工事立会	大畠二番 46 の 1	個人住宅建設	平成18年5月19日、5月29日	
5	大仏下遺跡	02024 工事立会	越河字台	ガスパイプライン敷設工事	平成18年5月6日～6月15日	
6	三部山遺跡	02325 工事立会	福岡長袋字三部山 30 の 1	個人住宅建設	平成18年6月2日、6月13日	
7	本館跡	02208 工事立会	白川津田字田畠 164 の 3	個人住宅建設	平成18年7月4日	
8	新館跡	02165 工事立会	南町二丁目 24 の 15	個人住宅建設	平成18年7月7日	
9	谷津川遺跡	02133 工事立会	旭町三丁目 7 の 12	個人住宅建設	平成18年7月3日、7月20日	
10	青木遺跡	02306 工事立会	福岡深谷字青木上 26 の 1	個人住宅建設	平成18年7月20日	
11	滝ノ瀬戸裏遺跡	02250 確認調査	福岡藏本字滝野原 168 - 1	無線局建設	平成18年8月22日	
12	鏡音崎遺跡	02322 工事立会	郡山字鏡音崎 163 - 1	個人住宅建設	平成18年8月24日	
13	大畠遺跡	02262 工事立会	宇東大畠 130	個人住宅建設	平成18年8月22日～28日	
14	本館跡	02208 工事立会	白川津田字山上	市道拡幅工事	平成18年8月29日	
15	前山遺跡	02115 工事立会	城南二丁目 1 の 8、1 の 9	個人住宅建設	平成18年9月1日	
16	佐野道遺跡	02396 工事立会	大鷹沢大字佐野道 84	個人住宅建設	平成18年9月4日	
17	北無双作遺跡	02009 確認調査	北無双作 33 の 11	個人住宅建設	平成18年8月22日、9月15日	
18	白石条里制推定地	02400 工事立会	旭町五丁目 3 の 3	個人住宅建設	平成18年9月19日	
19	鎌倉道跡、御堂跡	02016 工事立会	越河五賀字鎌倉、妙見	下水管埋設	平成18年9月20日	
20	御所内遺跡	02320 工事立会	福岡深谷字御所内	下水管埋設	平成18年9月28日	
21	弥陀内遺跡	02263 確認調査	郡山字平成 54	個人住宅建設	平成18年10月2日	
22	峠沢遺跡	02022 工事立会	越河五賀字峠沢	下水管埋設	平成18年10月19日	
23	新館跡	02165 工事立会	南町二丁目 24 の 16	貸家建築	平成18年10月20日	
24	弥陀内遺跡	02263 確認調査	郡山字平成 55 の一部	アパート建設	平成18年9月25日、10月20日	
25	永坂前遺跡	02040 工事立会	福岡長袋字永坂	下水管埋設	平成18年9月25日、10月25日	
26	青木遺跡	02306 工事立会	福岡深谷字青木	下水管埋設	平成18年12月10日	
27	白石条里制推定地	02400 工事立会	旭町五丁目 4 の 8	個人住宅建設	平成18年11月20日、29日	
28	馬場台遺跡	02021 工事立会	越河五賀字馬場、宮下	下水管埋設	平成18年10月30日、11月30日	
29	山道遺跡	02369 工事立会	越河字平山字山道	下水管埋設	平成18年12月4日	
30	深山館跡	02154 工事立会	越河字深山腰	下水管埋設	平成19年1月10日	
31	一本木遺跡	02101 工事立会	福岡深谷字一本木	個人住宅建設	平成19年1月18日	
32	竹ノ内遺跡	02434 工事立会	大鷹沢三沢字五丁目 154 の 4	個人住宅建設	平成19年2月13日	
33	鳩巣古墳群30号墳	02005 工事立会	郡山字虎子沢山 2 の 5、2 の 2	確認調査埋め戻し	平成19年2月7日、2月15日	
34	白石条里制推定地	02400 工事立会	旭町三丁目 1 の 2 の一部	アパート建設	平成19年3月6日	
35	弥陀内遺跡	02263 工事立会	郡山字平成	下水管埋設	平成19年1月24日～3月14日	
36	古御所遺跡	02113 確認調査	大平森合字坂下前 24 の 4	確認調査	平成19年3月13日	
37	下ノ神明遺跡	02269 02326 02328	工事立会	福岡長袋字永坂	下水管埋設	平成19年2月5日～3月28日
38	大畠遺跡	02262 工事立会	堂場前 146 の 5	個人住宅建設	平成19年3月30日	
39	大畠遺跡	02262 発掘調査	堂場前 146 の 5	個人住宅建設	平成19年4月12日	
40	大畠遺跡	02262 工事立会	宇東大畠 20 の 2	個人住宅建設	平成19年4月13日	
41	白石城跡	02197 確認調査	南町一丁目 360 の 1	病院建設	平成19年4月17日	
42	觀音崎遺跡	02322 工事立会	郡山字觀音崎 1	個人住宅建設	平成19年4月24日	
43	打越前遺跡	02262 02370	工事立会	越河平字打越前、愛宕山	用排水路工事	平成19年5月18日
44	弥陀内遺跡	02263 確認調査	十王堂前 71 の 1	貸家建築	平成19年5月23日	
45	本郷遺跡	02121 確認調査	沢目 26 の 5	個人住宅建設	平成19年6月4日～8日	
46	下郷遺跡	02307 確認調査	福岡深谷字下郷 111 の 4	個人住宅建設	平成19年6月4日、5日	
47	前原北遺跡	02095 工事立会	福岡深谷字前原	下水管埋設	平成19年6月25日	
48	大畠遺跡	02262 確認調査	宇東大畠 59、60	住宅地造成	平成19年6月25日	
49	田中遺跡	02135 確認調査	大平中字大柳前 1	個人住宅建設	平成19年6月27日	
50	鳩巣古墳群28号墳	02005 工事立会	鳩巣字堂ノ入山 2 の 14	確認調査埋め戻し	平成19年6月27日	

No.	遺跡名	遺跡番号・付近内蔵	所在地	調査要因	調査期間
51	前山遺跡	02115 工事立会	城南二丁目4の10	個人住宅建設	平成19年6月27日
52	白石条里制跡推定地	02400 工事立会	旭町三丁目1の6	個人住宅建設	平成19年6月27日
53	白石条里制跡推定地	02400 工事立会	旭町四丁目5の5	個人住宅建設	平成19年7月9日
54	松田遺跡	02094 工事立会	福岡深谷字松田	下水管埋設	平成19年7月17日
55	白石条里制跡推定地	02400 工事立会	旭町五丁目1の1	駐車場建設	平成19年7月24日、25日
56	白石条里制跡推定地	02400 工事立会	旭町三丁目8の3、8の4	アパート建設	平成19年8月2日
57	新館跡	02165 工事立会	南町二丁目24の17	個人住宅建設	平成19年9月3日
58	赤宮内遺跡	02430 確認調査	赤宮内42の1	個人住宅建設	平成19年9月13日
59	湯ノ口遺跡	02097 工事立会	福岡深谷字湯ノ口	下水管埋設	平成19年10月9日～11日
60	八幡坂西隣壁跡 八幡坂西遺跡	02249 工事立会 02245	八幡町748の1	販家建英	平成19年10月24日
61	鹿ノ原跡	02294 工事立会	福岡長袋字鹿野屋敷	下水管埋設	平成19年11月6日、12日
62	大畑遺跡	02400 確認調査	宇東大畑9の1	アパート建設	平成19年11月12日
63	植田前遺跡	02071 工事立会	福岡深谷字植田前	下水管埋設	平成19年11月12日
64	大畑遺跡	02400 工事立会	宇東大畑59の2	個人住宅建設	平成19年11月21日
65	三ヶ山遺跡	02325 工事立会	福岡長袋字三ヶ山	下水管埋設	平成19年12月4日～ 平成20年1月9日
66	大畑遺跡	02262 工事立会	宇東大畑59の1	個人住宅建設	平成19年12月18日
67	大畑遺跡	02400 確認調査	宇東大畑108の1	宅地造成	平成19年12月26日～21 平成20年2月28日、12日
68	飯詰遺跡	02111 工事立会	糸川字中糸川	新幹線橋脚補強工事	平成20年2月1日
69	六角遺跡	02100 工事立会	福岡深谷字六角	下水管埋設	平成20年1月24日
70	松田遺跡	02094 工事立会	福岡深谷字松田	下水管埋設	平成20年1月28日
71	大畑遺跡	02262 確認調査	宇不登ヶ池100～1、103～3	個人住宅建て替え	平成20年1月31日
72	大畑遺跡	02262 工事立会	宇東大畑9～1	アパート建設	平成20年1月31日～2月9日
73	赤沼遺跡	02227 工事立会	福岡深谷字南上	下水管埋設	平成20年2月4日
74	大畑遺跡	02262 確認調査	宇東大畑37	宅地造成	平成20年2月19日
75	本越跡	02208 工事立会	白川津田字川畠	斜面掘削、土取り	平成20年1月25日～3月27日
76	天神館跡	02149 工事立会	白川津田字寺下51～1,55	個人住宅建設	平成20年3月18日
77	大畑遺跡	02262 確認調査	宇不登ヶ池94	駐車場建設	平成20年3月25日
78	大畑遺跡	02262 工事立会	郡山字荒星敷50～2	住宅建築	平成20年3月31日
79	白石条里制跡推定地、 宮下遺跡	02400 確認調査 02128	大鷹沢三沢字坂端	坂端道路改良工事	平成19年6月14日～20日
80	和尚堂遺跡	02401 免差異査	大鷹沢三沢字坂端	坂端道路改良工事	平成19年9月26日～12月27日

第2章 平成18年度及び19年度における発掘調査成果

1 大畑遺跡

地点①

県遺跡番号 02262 遺跡略号 OH

所在地 白石市宇堂場前145番地5

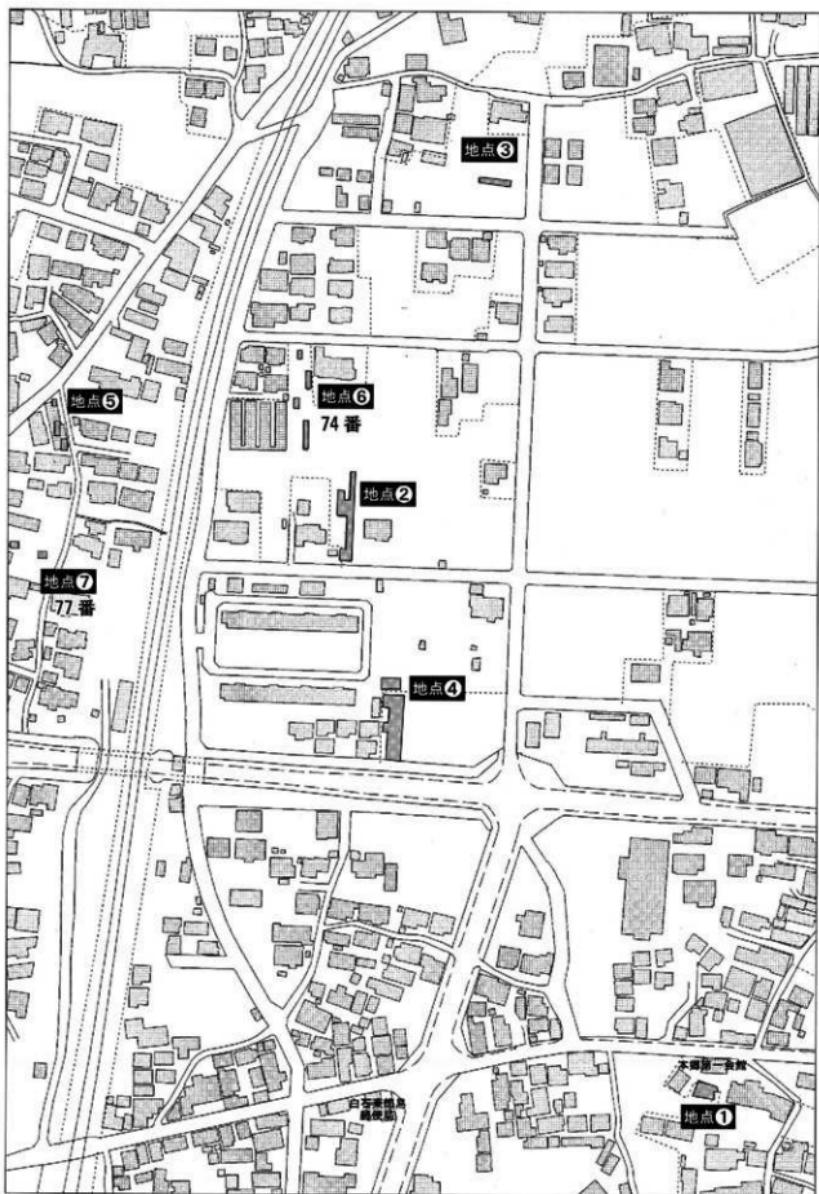
調査要因 個人住宅地調査 調査期日 平成19年2月5日～3月29日 調査面積 115m²

遺跡はJR東日本東北本線白石駅から北東約0.5kmの住宅地に位置している。当該地の現況は畠地になっている。今回、住宅建築における基礎工事で土壤改良が実施されるため、埋蔵文化財の発掘調査を実施した。なお、調査区南東部は自家用井戸が設置されているため、発掘調査対象区から除外した。基本層位は表土、第2層にぶい黄褐色シルト、第3層褐色灰色シルト、第4層に

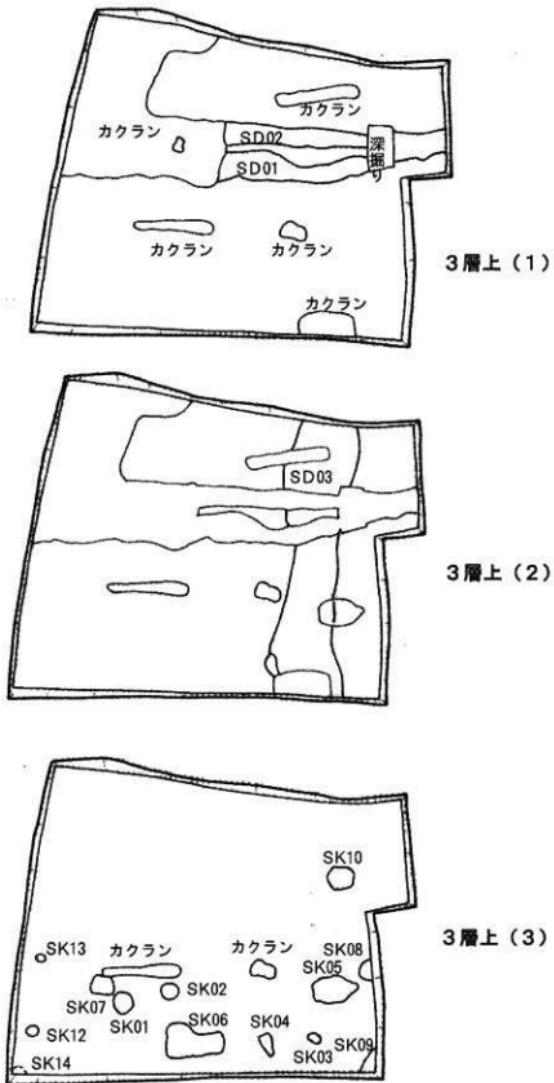


第1図 遺跡位置図（平成19年9月20日現在）

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	上高野遺跡	散布地・製鉄遺跡	縄文早～中・奈良・平安	13	中庭敷陣屋跡	陣屋	近世
2	荒井遺跡	散布地・製鉄遺跡	縄文前～晚・弥生・古代	14	月心院遺跡	散布地・寺院	古代・近世
3	三木本前遺跡	散布地	縄文前・後・晚・古代・中世	15	祢陀内遺跡	散布地	弥生～平安
4	御所内遺跡	集落	縄文早・中・後・平安	16	祢室内遺跡	散布地	奈良・平安
5	青木遺跡	集落	縄文早・中・晚・弥生・平安	17	觀音崎遺跡	集落	古墳後～平安
6	下館遺跡	散布地・鐵道・製鉄遺跡	縄文後・平安・中世	18	大畠遺跡	散布地・官衛	弥生～中世
7	道内原遺跡	散布地・製鉄遺跡	奈良・平安	19	本郷遺跡	散布地	古代
8	堂田庵寺跡	寺院	平安	20	塙田遺跡	集落	弥生・古墳
9	下ノ神明遺跡	散布地	縄文中・平安	21	鷹巣古墳群	前方後円墳・円墳	古墳・古代
10	田上遺跡	散布地	縄文前・中	22	谷津川遺跡	散布地	縄文～古代
11	背生田遺跡	集落	縄文前～後・弥生	23	白石条里制跡推定地	水田跡	古代・中世
12	下船遺跡	散布地	古代	24	和尚堂遺跡	散布地	縄文後・古代



第2図 大烟遺跡調査区位置図 (S = 1 / 2,500)



第3図 地点① 造構配置図(1) ($S = 1 / 100$)



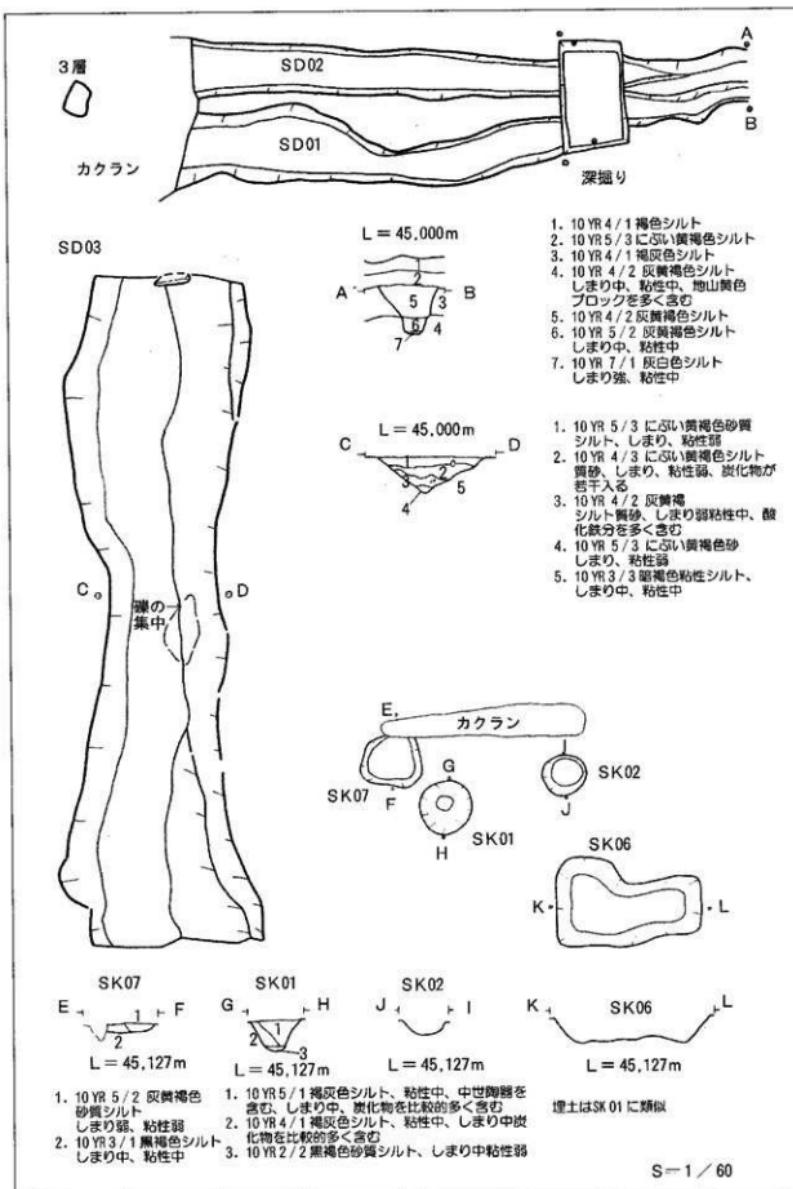
第4図 地点① 遺構配置図(2) (S = 1 / 100)

ぶい黄褐色粘土質シルトとなっている。遺構は3層上面で確認され、切り合い関係、埋土の特徴から4時期の変遷が確認された。なお表土、カクランからは、型押しの瓦質土器香炉、近世?、大堀相馬掛け分け椀、18世紀、菊花角小皿、呉須塗りつぶし、19世紀、洋食器、明治時代、海外産?、白磁の壺があった。

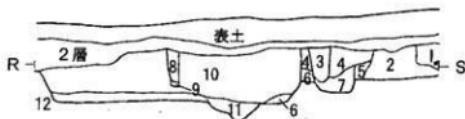
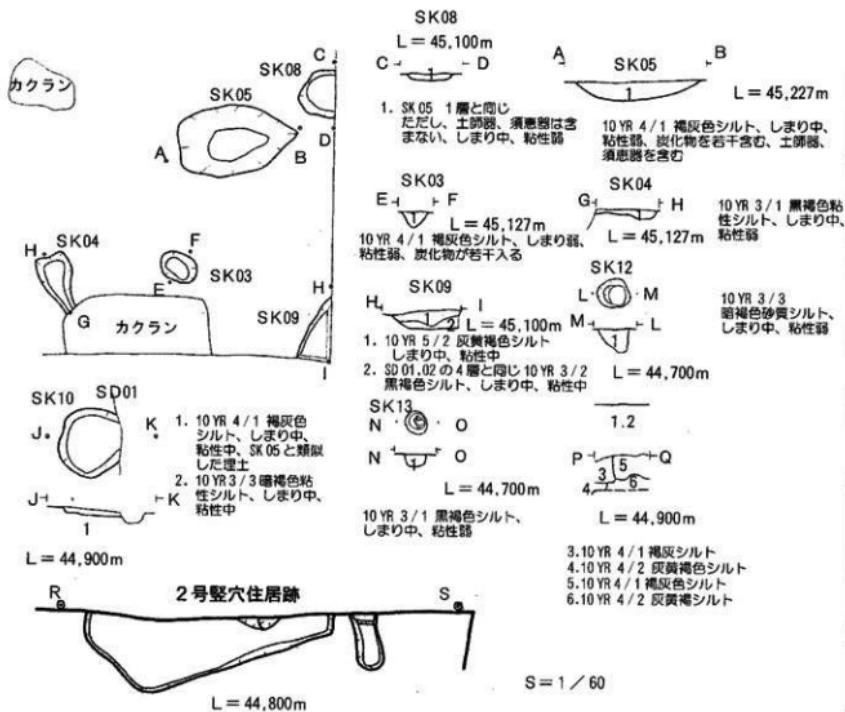
遺構、遺物は次のものが確認された。第3層上面では近世の溝、SD 01、SD 02は東西方向で6.9mほど確認されたが、西側はカクラン、東側は調査区外であったため、全長は不明である。2つの溝は調査区の東寄りで重複するが、切り合い関係は明確にできなかった。SD 01は幅0.45~0.65m程、SD 02は幅0.35~1m程であった。深さは0.6mである。遺物は近世陶磁器（大堀相馬、灰釉徳利、18世紀代）、瓦、寛永通宝銅錢、土師質の土器がある。

13世紀後半以降、近世以前の溝1条、SD 03は長さ8.4m以上で、幅1.5~2.3m、深さ0.45mで南北方向を向いている。堆積土に礫が多く含まれる箇所がある。出土遺物には中世陶器13点、回転糸切り底の土師器、須恵器がある。

13世紀後半の土坑13基が確認された。SK 01は長軸0.6m、短軸0.6mで深さは0.38mで円形を呈し、土師器が出土した。SK 02は長軸0.55m、短軸0.5m、深さ0.14mで円形を呈している。SK 03は長軸0.5m、短軸0.3m、深さ0.18mで楕円形である。土師器、近世陶磁器（染付皿、刷絵、19世紀後半）が出土したが、後者は取り上げ時の混入と考えられる。SK 04は長軸0.7m、短軸0.4m、深さ0.12mでカクランに切られ、三角形を呈している。土師器が出土した。SK 05は長軸1.5m、短軸0.85m、深さ0.2mで五角形である。土師器、鉄器小片が出土した。SK 06は長軸1.75m、短軸1.1m、深さ0.28mでL字形を呈している。土師器、中世陶器2点が出土した。SK 07は長軸0.75m、短軸0.6m以上で歪な方形で、北端をカクランによって切られ、



第5図 発見された遺構 (1)



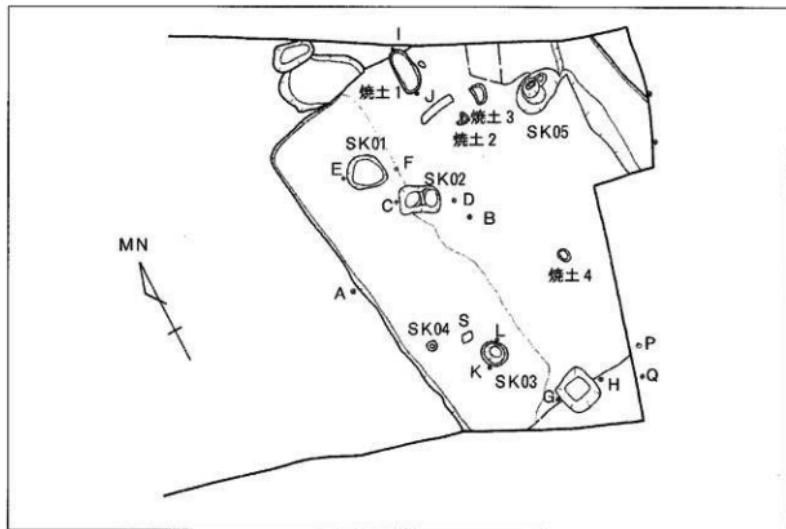
2層
1. ピット埋土、10 YR 4 / 3 にぶい黄褐色シルト、しまり中、粘性弱、2層 5 / 3 にぶ
い黄褐色シルト、しまり弱、粘性弱
2. 基本層位3層、10 YR 4 / 1 褐灰色シルト、しまり中、粘性弱、黄色ブロックを
多く含む
3. 10 YR 6 / 1 褐灰色シルト、しまり弱、粘性中、黄色ブロック、
炭化物を含む

2層
4. 10 YR 4 / 2 灰黄褐色シルト、し
まり中、粘性中、基本層位3層
より黄色ブロックが多い、土器を
若干含む
5. 10 YR 4 / 3 にぶい黄褐色シルト、
しまり中、粘性弱、土器が中程藍
含まれる、黄色ブロックを多く含
まれる、カマドの袖

- 表土 10 YR 4 / 1 褐灰色シルト、しまり中、粘性弱、2層 5 / 3 にぶ
い黄褐色シルト、しまり弱、粘性弱
1. ピット埋土、10 YR 4 / 3 にぶい黄褐色シルト、しまり中、粘性弱
炭化物が若干入る、中世陶器を含む、黄色ブロックを多く含む
2. 基本層位3層、10 YR 4 / 1 褐灰色シルト、しまり中、粘性弱、
黄色ブロックを含む
3. 10 YR 6 / 1 褐灰色シルト、しまり弱、粘性中、黄色ブロック、
炭化物を含む
6. 10 YR 5 / 3 にぶい黄褐色粘性シルト、しまり中、粘性中、炭
化物、黄色ブロックを多く含む、カマドの袖
7. 10 YR 3 / 3 褐褐色シルト、しまり中、粘性弱、橙色、黄色ブロックも
多く含む
8. 10 YR 4 / 2 灰黄褐色シルト、しまり中、粘性弱、ピット埋土
9. 10 YR 3 / 1 黑褐色粘性シルト、しまり中、粘性中、ピット埋土
10. 10 YR 4 / 1 褐灰色粘性シルト、しまり中、粘性弱、黄色ブロックを
多く含む、人為的埋め戻し
11. 10 YR 5 / 6 黄褐色粘土、しまり中、粘性中、貼り床、黄色ブロック
を多く含む
12. 地山 10 YR 5 / 4 にぶい黄褐色シルト質粘土、しまり中、粘性中

第6図 発見された遺構 [2]

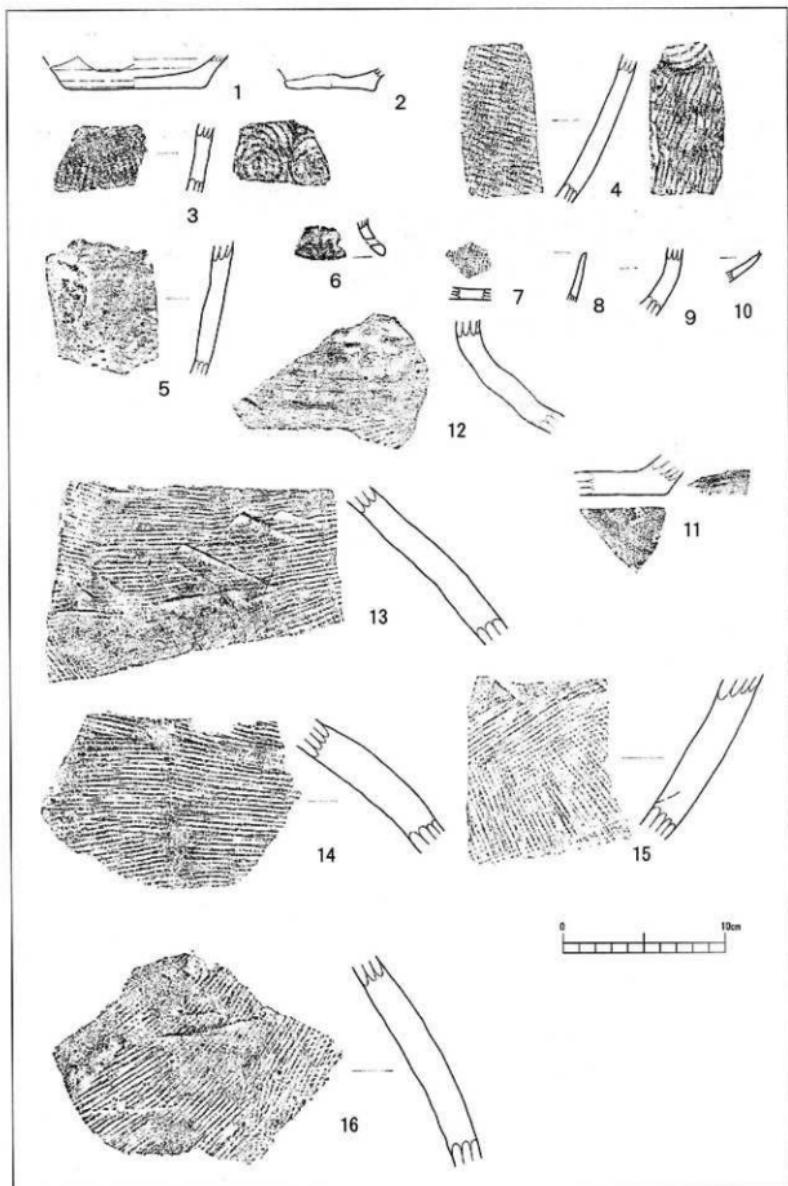
深さ 0.12 m である。SK 08 は長軸 0.55 m、短軸 0.4 m、深さ 0.08 m で梢円形、SK 09 は長軸 0.75 m 以上、短軸 0.4 m 以上、深さ 0.23 m、正確な規模は不明である。SK 10 は長軸 0.85 m、短軸 0.75 m、深さ 0.08 m で SD 01 に切られている。土師器が出土した。SK 12 は長軸 0.4 m、短軸 0.35 m、深さ 0.28 m、円形である。土師器が出土した。SK 13 は長軸 0.3 m、短軸 0.25 m、深さ 0.15 m で円形で、土師器、中世陶器が出土した。SK 14 は調査区南西隅にあり、断面で確認した。規模は長軸 0.5 m、深さ 0.34 m であった。SK 12、14 では大甕破片が重なった状態で廃棄



第7図 1号竪穴住居跡平面図 (S = 1 / 100)

A	B	C	D
1. 10 YR 4 / 1 黄褐色シルト、しまり中、粘性弱 黄色地山ブロックを少額含む	2. 10 YR 4 / 2 灰褐色シルト、しまり中、粘性弱、黄色地山ブロックを多く含む、住居の粘床 3. 10 YR 5 / 2 灰褐色砂、しまり、粘性弱、掘りすぎ、地山の砂	1. 10 YR 3 / 3 深褐色シルトしまり中、 粘性中、黄色地山ブロックを少額含む	1. S101 理土と類似しているが、 酸化鉄を多く含む 10 YR 3 / 2 黑褐色シルト、しまり中、粘性中、炭化物が若干入る
SK01	SK11	SK02	SK03
L = 44,600m	L = 44,600m	L = 44,300m	L = 44,700m
E	F	G	H
SK01	焼土 1	SK02	SK03
L = 44,600m	L = 44,600m	L = 44,300m	L = 44,700m
1. 10 YR 4 / 1 褐灰色シルト、しまり中、粘性弱 粘性弱、石は直径 14 ~ 18cm の平石	1. 炭化物を若干含む、橙色 ブロックを多く含む	1. 10 YR 3 / 1 黑褐色シルト、しまり強、 粘性弱が主で 10 YR 6 / 4 に近い黄 褐色シルト、しまり強、粘性弱 2. 10 YR 4 / 2 灰褐色砂、しまり弱、 粘性弱 南西 遷ビット(小) 10 YR 4 / 1 梅灰色粘性シルト、しま り中、粘性中	1. 5 塵と同じだが、若干朝るい。 10 YR 4 / 3 に近い黄褐色粘土、 しまり中、粘性強、黄色地山ブ ロックを多く含む 2. 5 塵と類似しているが、しま りが弱い 10 YR 3 / 4 灰褐色砂質シルト、 しまり弱、粘性中、細かい黄色 地山(酸化鉄は若干)ブロックを含む 3. 5 塵と同じだが、若干朝るい。 10 YR 4 / 3 に近い黄褐色粘土、 しまり中、粘性強、黄色地山ブ ロックを多く含む 4. 10 YR 6 / 3 に近い黄褐色砂質シ ルト、黄色地山ブロックを多く 含む、しまり弱、粘性中 5. 10 YR 4 / 2 褐褐色シルト、しま り強、粘性強黄色地山ブロック と 1 層がまじったもの 6. 10 YR 4 / 3 に近い黄褐色シルト 質砂、しまり弱、粘性弱、黄色 地山ブロックを含む 7. 10 YR 5 / 2 灰褐色砂、しまり、 粘性弱、地山砂に類似、黄色地 山ブロックをごく少量含む
1. 2.5 YR 5 / 8 明赤褐色シルト、 しまり弱、粘性弱、壁厚 4cm	2. 2.5 YR 5 / 8 明赤褐色シルト、 しまり弱、粘性弱、壁厚 4cm		

第8図 1号竪穴住居跡断面図 (S = 1 / 60)

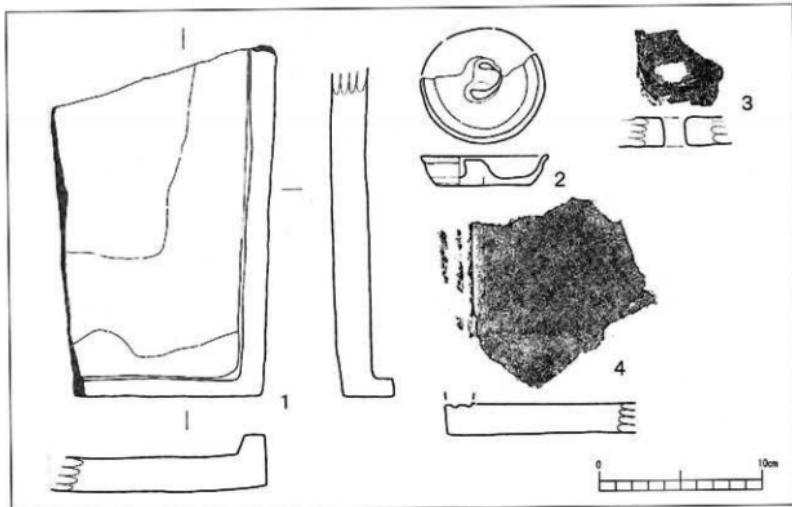


第9図 発見された遺物(1)

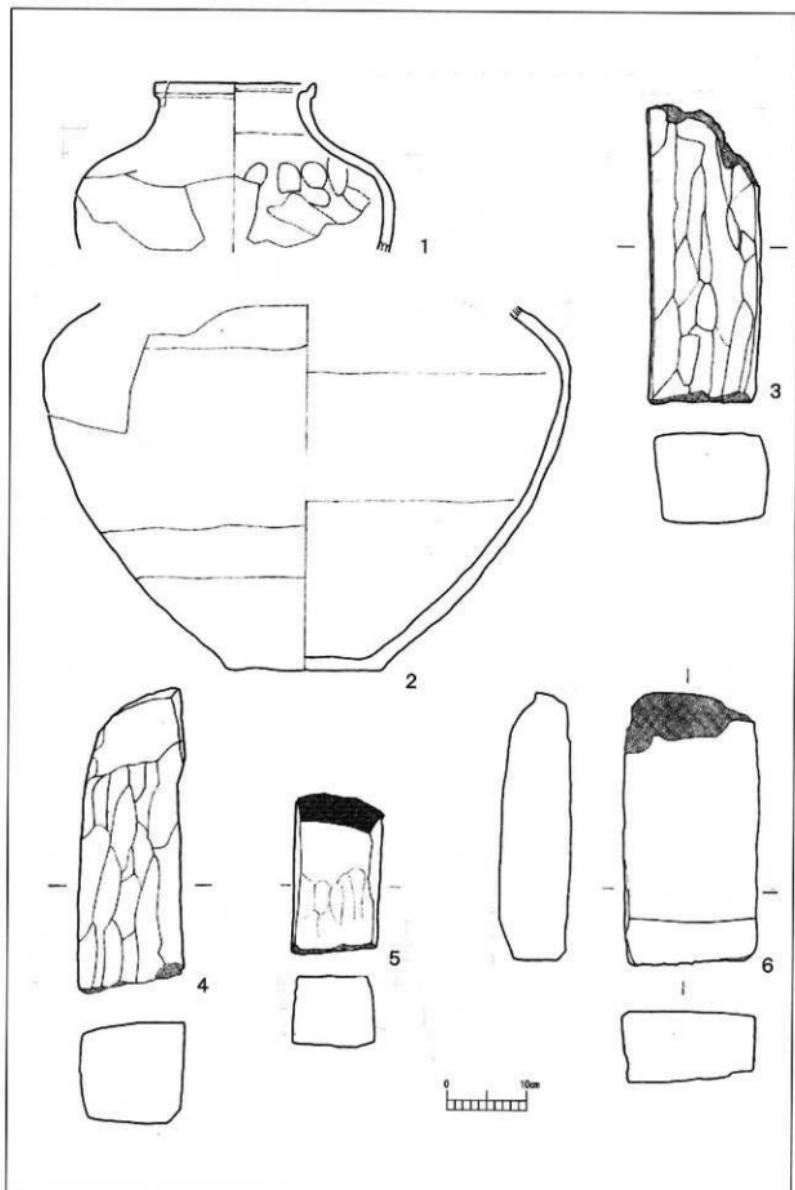
されていた。若干丸みを帯びた長さ 0.28 m の被熱縫が出土した。2 号竪穴住居跡埋土を切っているピット 2 基がある。規模はそれぞれ直径が 0.18 ~ 0.25 m、深さ 0.4 ~ 0.45 m であった。

第 4 層上面では竪穴住居跡 2 棟、土坑 1 基が確認された。7 世紀中葉～後葉の 1 号竪穴住居跡は一辺が 7 m 程の規模で、北にカマドを設置し、焼土も確認されている。調査時に住居跡としての認識が遅れたので、埋土をだいぶ掘削してから平面形を確認した。西壁付近で埋土は 0.35 m であった。配置関係から SK 02, 03, 05 が柱穴になると思われる。SK 01 は長軸 0.75 m、短軸 0.7 m、深さ 0.08 m で崩れた円形である。SK 02 は長軸 0.85 m、短軸 0.6 m、深さ 0.64 m で方形である。SK 04 は直径 0.23 m、深さ 0.3 m の円形である。SK 05 は長軸 1.1 m、短軸 0.7 m、深い所で 0.73 m で梢円形である。焼土 1 は長軸 1 m、短軸 0.45 m、深さ 0.1 m の長梢円形、焼土 4 は直径 0.2 m 程、深さ 0.05 m の円形である。SK 03 は長軸 0.55 m、短軸 0.45 m、深さ 0.35 m で円形である。この住居跡を切っている SK 11 は長軸 0.9 m、短軸 0.8 m、深さ 0.45 m で方形で、土師器が出土した。1 号竪穴住居跡では西側及び東端で部分的に貼り床が確認され、土師器、須恵器、石製紡車、切石、鉄滓（4 点、104.1 g）、焼成骨片（SK 02）、円礫、長さ 9.8 cm の棒状鉄器などが発見された。2 号竪穴住居跡では貼り床、カマド、土坑が確認され、土師器、焼成骨片が出土された。両住居跡の側面がほぼ平行に配置されていることから、これらの住居跡は、ほぼ同時期に存在していたと推定される。

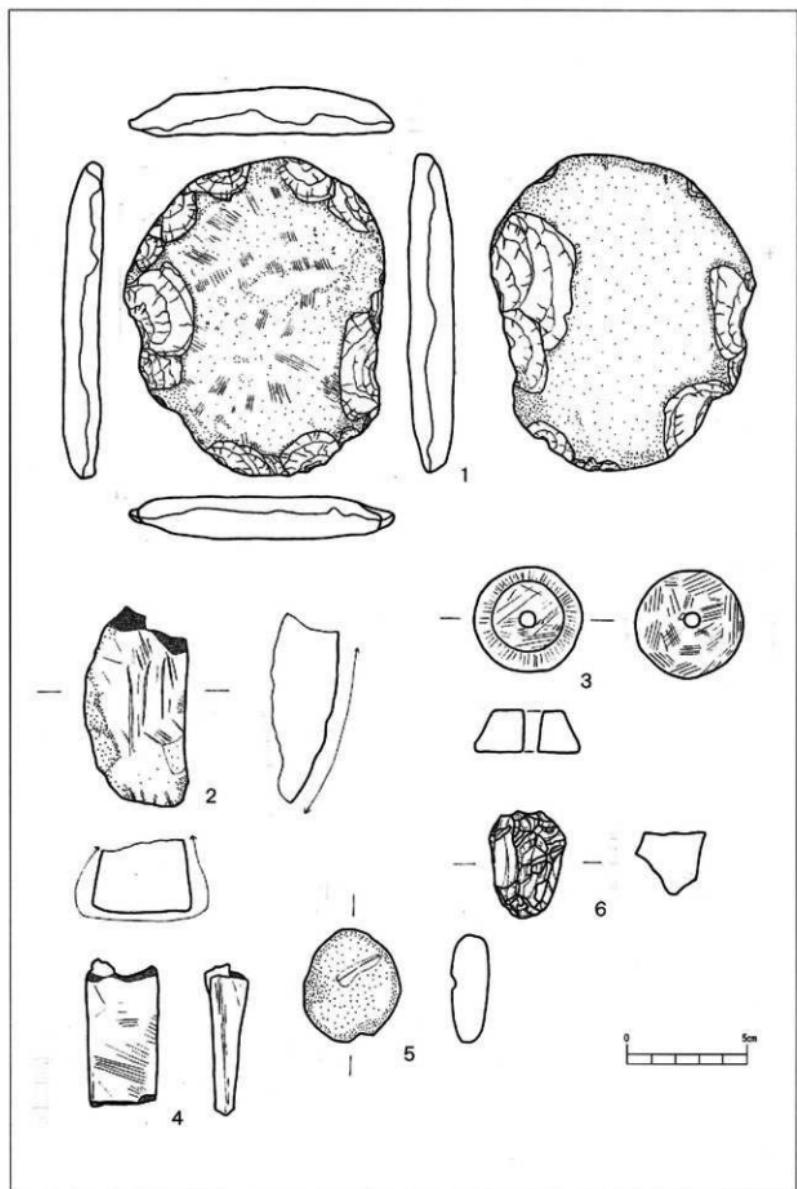
今回の調査区に西接する箇所での平成 17 年 7 月 13 日の確認調査では遺物包含層が確認されている（津田 2006）。報告では遺物は小破片で図示するものではないと記しているが、実物を確認すると 7 世紀後葉～8 世紀初めの土師器が出土している。確認調査トレンチの規模を考慮すると竪穴



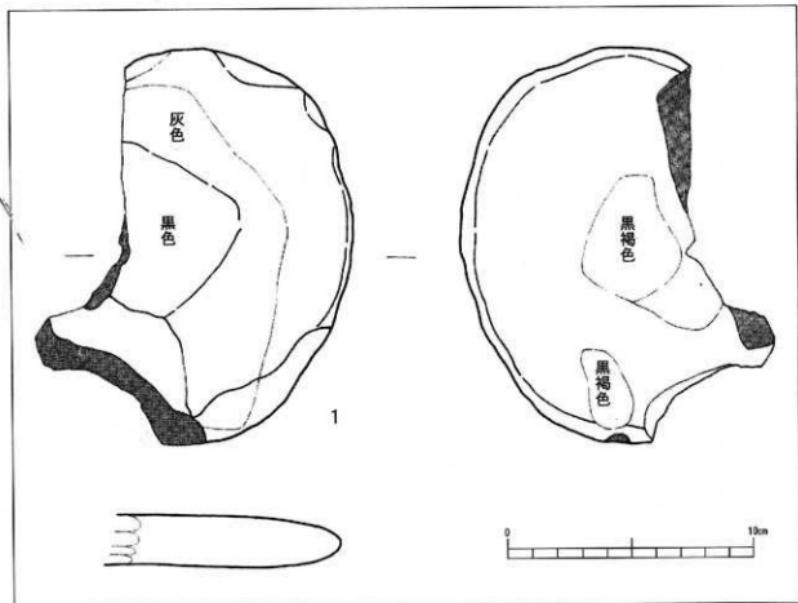
第 10 図 発見された遺物 (2)



第11図 発見された遺物(3)



第12図 発見された遺物 (4)



第13図 発見された遺物(5)

住居跡の中心部を発掘した可能性が高く、今回のものと同時期の住居跡が広がっていることが指摘できる。

出土遺物のうち、中世陶器について述べることにする。第9図12～16は福島市鬼沙門平窯もしくは赤川窯産と考えられるものである(吉岡1994)。須恵器と異なり、内面にあて具痕がないこと、外面叩き目が細いなどの特徴がある。また、三筋壺(第9図9、写真17の1)は、产地不明であるが、複線が描かれるものである。いずれも12世紀代に属するものと考えられる。青磁片(第9図8、写真17の2)は12世紀末～13世紀前半のものである。白磁(写真17の3)は小片で特徴がつかみにくいが、12世紀代の可能性が指摘できる。他に青磁(第9図10、写真17の4)がある。図示、写真掲載はしなかったが、年代产地不明の白磁と推定される小片がある。

なお、1号及び2号堅穴住居跡から発見された古代の土器については、別項で詳論する。

古代の土器

第1号及び第2号住居跡から出土した遺物には土師器、須恵器、土製支脚などがある。出土状況に一括りは無く、住居に伴う遺物は1号住居貼り床出土の須恵器坏（第15図5）のみで、その他は堆積土出土である。出土した資料は、いずれも破片資料で全体像がわかる資料は少ない。また、土器表面の摩滅が激しく器面調整も不明なものも多い。ここでは、図化し得た資料の特徴と年代について記述することにする。

■土師器■

図化し得た土師器には坏、高坏、椀、鉢、壺、甕、甑、ミニチュアと土製支脚がある。

第14図1、2の坏は丸底の底部と口縁部の境に稜をもつもので、底部にケズリあるいはミガキ、口縁部にヨコナデが施され、内面はミガキと黒色処理される。このような特徴をもつ坏は氏家和典氏の型式編年（氏家 1957）における第五型式土器=栗団式に該当する。

第14図3の坏は丸底の底部に短い口縁部が屈曲して直立するもので、器外面底部にケズリ、口縁部にヨコナデが施され、内面はナデ仕上げされ橙色に焼成されている。このような特徴をもつ坏は在地の栗団式には認められず、その出自が関東北西部に求められる、いわゆる「関東系土師器」に属するものと考えられる。この類に属する関東系土師器は仙台市郡山遺跡、東松島市赤井遺跡、大崎市名生館官衙遺跡、権現山遺跡、南小林遺跡、灰冢遺跡、色麻町色麻古墳群など仙台平野から宮城県北部の大崎・石巻海岸平野に分布する7世紀後半から8世紀初頭頃の城柵官衙関連遺跡に類例がある。その出自を検討した高橋誠明氏（高橋 2007）によれば、第14図3に類似する土器は、埼玉県北西部から群馬県にかけて分布する「北武藏型坏」に該当するものと考えられる。本資料は胎土に砂粒を含み在地土師器と同じ胎土を示すことから搬入品ではなく、在地で生産されたものと考えられる。

第14図4の椀は深い半球形を呈するもので、底部にケズリ、口縁部にハケメが認められ、内面はミガキと黒色処理される。このような特徴をもつ椀は金属器を模倣して出現した器種と考えられる。

第14図6～8は高坏片である。脚部は比較的高く、第14図8は脚部に長円形のスカシが穿たれている。このような特徴をもつ高坏は、7世紀後半から8世紀初頭の城柵官衙遺跡から多く出土している。

第14図11～14、第15図1・2は甕あるいは壺、第15図3・4は甑である。いずれも頸部に段をもち口縁部が外反するもので、器面は口縁部にヨコナデ、体部にハケメが施される。このような特徴をもつ坏は氏家和典氏の型式編年における第五型式土器=栗団式に該当する。

■須恵器■

須恵器は出土数が少なく、図化できたのは3点である。

第15図5は坏で、丸底の底部に口縁部が直立気味になる小振りのものである。仙台市郡山遺跡に類例がある。陶邑窯TK 217型式期に並行するものと考えられる。

第15図6は盤あるいは壺の口縁部片、第15図7は高坏片である。概ね、7世紀から8世紀初頭頃と考えられる。

■土師器・須恵器の年代と問題■

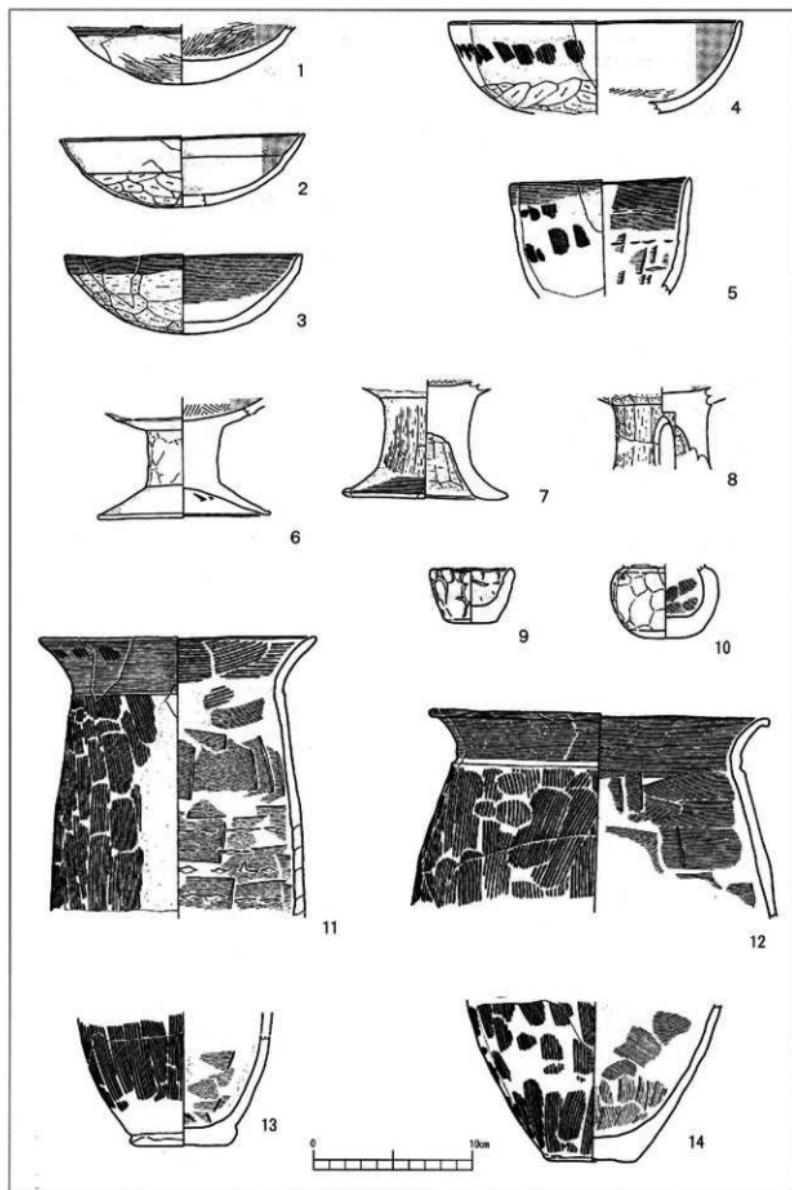
図化し得た土器の年代は、概ね、氏家和典氏の型式編年における第五型式土器=栗団式の範疇で捉えられ、7世紀から8世紀前半に位置づけられる。近年、宮城県中、南部の当該期の土器変遷について、村田晃一氏が様式的観点から提示している（村田 2007）。本資料は概ね村田氏の4～

5段階に相当し、年代的にも矛盾しない。特に、7世紀末～8世紀初頭頃を中心としたものが多いと考えられる。

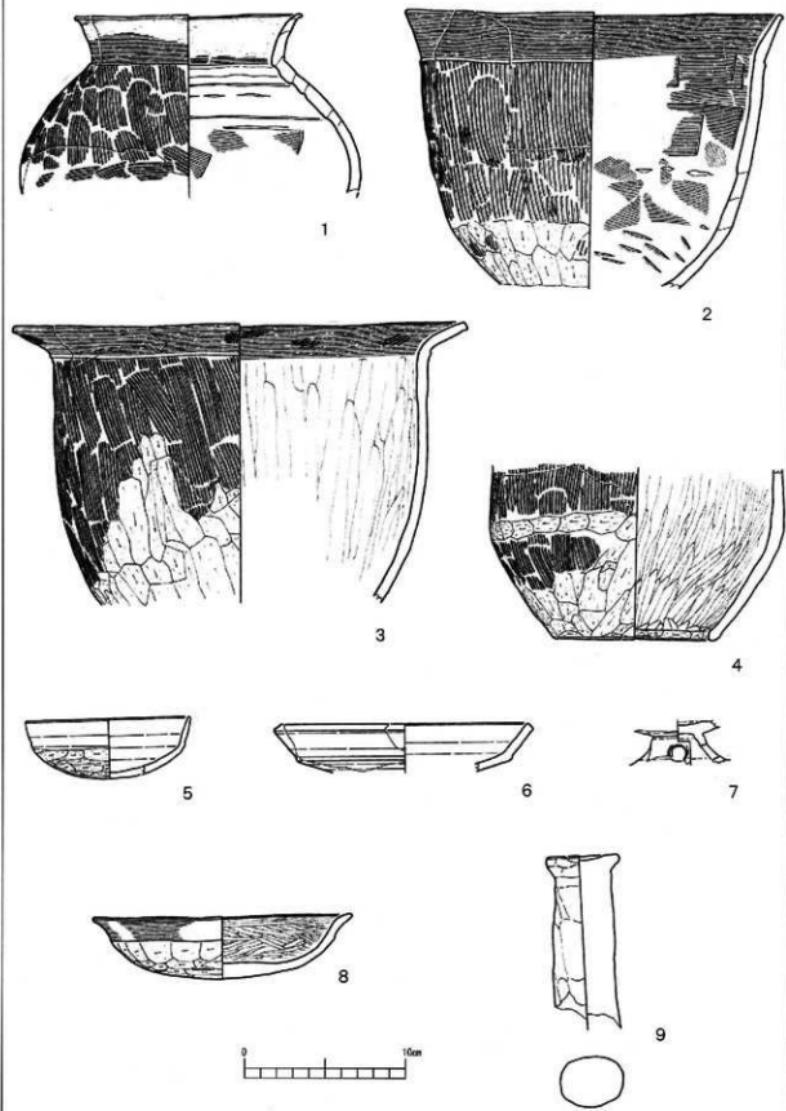
本調査で得られた資料のなかに、「関東系土師器」が含まれていた。これまで関東系土師器は仙台平野以北の宮城県内に広く分布すると認識されてきたが、少數ながらも宮城県南部の本遺跡から出土したことは、関東系土師器の意味を考える上で貴重な発見といえる。

引用文献

- 氏家和典 1957 「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史』第14輯
- 佐藤敏幸 2007 「第Ⅱ章 東北・北海道における6～8世紀の土器変遷と地域の相互関係—vi. 宮城県北部・沿岸部—」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』平成15年度～平成18年度科学研究費補助金研究成果報告書
代表研究者辻秀人東北学院大学文学部
- 高橋誠明 2007 「律令国家の成立期における境界地帯と関東との一関係」『国士館考古学』第3号
- 村田晃一 2007 「第Ⅱ章 東北・北海道における6～8世紀の土器変遷と地域の相互関係—V. 宮城県中部から南部—」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』平成15年度～平成18年度科学研究費補助金研究成果報告書
代表研究者辻秀人東北学院大学文学部



第14図 発見された遺物 (6)



第15図 発見された遺物(7)

地点②

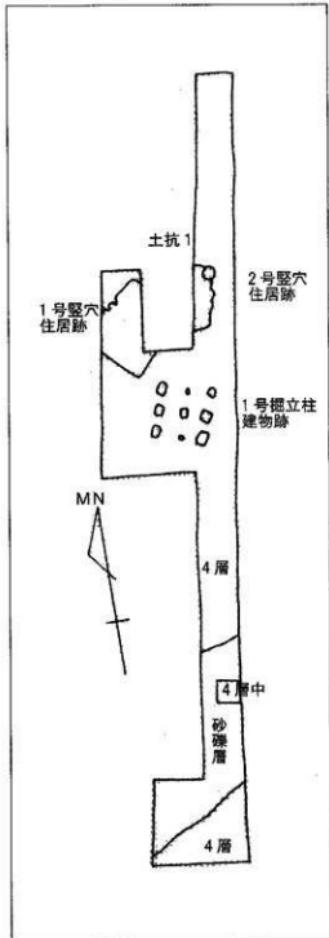
所在地 白石市字東大畠59番、60番

調査要因 住宅地造成 調査期日 平成19年6月4日～5日

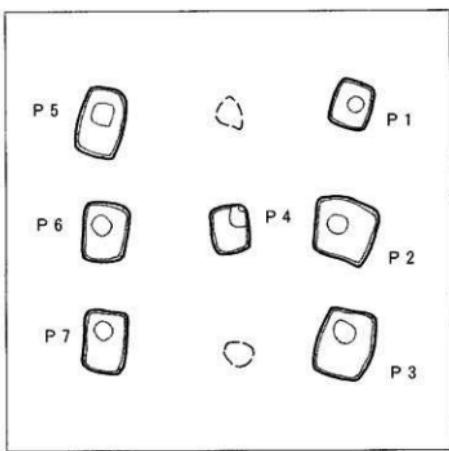
調査面積 1,052m² (掘削面積 170m²)

遺跡はJR東日本東北本線白石駅から0.7kmの位置にあり、現況は畑地である。周囲は宅地化が進んでいる。今回、宅地造成に伴う確認調査を実施した。確認調査トレンチは事業地中央より若干東側に設定した。調査区南端における基本層序は次のとおりである。第1層、表土、褐色土、層厚38cm、第2層、明茶褐色土、22cm、第3層、黒褐色土、22cm、第4層、黄褐色砂、10cm以上であった。造構確認面は第4層上面である。また調査区南半では、砂礫層があり、第3層下で第4層の上に堆積している。

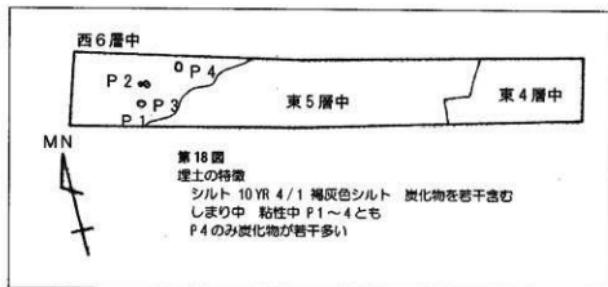
発見された遺構として掘立柱建物跡1棟、竪穴住居跡2棟、土坑1基、遺物包含層(第3層)がある。1号竪穴住居跡は全体形が不明であるが、片方は一辺5m程で北側に竈が設置され、埋土から土師器が出土している。2号竪穴住居跡は一边が4.2mで、土坑に切られている。1号掘立柱建物跡の柱穴掘り方は一边が0.5m～0.7m程である。当初、総柱建物かと考えられたが、北辺と南辺中央の柱が明確に確認できず、門の可能性がある。柱痕跡は0.2m～0.3m程であった。P4から土師器が出土している。基本層位から土師器、須恵器が発見された。土師器には9世紀～10世紀代の台付鉢が含まれている。



第16図 地点②平面図 (S = 1 / 300)



第17図 地点②1号掘立柱建物跡平面図 (S = 1 / 60)



第18図
埋土の特徴

シルト 10 YR 4 / 1 褐灰色シルト 炭化物を若干含む
しまり中 粘性中 P1~4とも
P4のみ炭化物が若干多い

地点③

所在地 白石市字東大畠 9-1 の一部

調査要因 共同住宅建設 調査期日 平成 19 年 11 月 12 日

調査面積 987m² (掘削面積 31m²)

遺跡は JR 東日本東北本線白石駅から 0.8 km の位置にあり、現況は畠地である。周囲は宅地化が進んでおり、今回、共同住宅建設に伴う確認調査を実施した。確認調査トレンチは、アパート建築予定地、農作物を避けて設置した。直径が約 20 cm ~ 30 cm のピット 4 基、土師器を含む遺物包含層を確認した。土師器は西側に多く、東ほど少なかった。ピット埋土は褐灰色シルトであった。一部に炭化物が含まれている。第 1 層からは土師器、古瀬戸灰釉皿か椀(中世)が出土した。

その結果、次のような層序を確認した。調査区西側においては第 1 層、灰黄褐色シルト、第 2 層、灰黄褐色シルトに灰褐色粘土ブロックが入る、第 3 層、にぶい黄褐色粘性シルト、橙、灰褐色粘土ブロックを含む、ビニール片含む、第 4 層、褐灰色砂、第 5 層、褐灰色シルト質粘土、第 6 層、にぶい黄褐色シルト質粘土、遺構検出面、遺物包含層(剥片、土師器が出土)、全体で層厚 84 cm であった。第 2 層から第 5 層は擾乱層であった。

調査区東側においては、第 1 層、灰黄褐色シルト、第 2 層、褐灰色砂、第 3 層、褐灰色シルト質粘土、第 4 層、褐灰色砂質シルト、酸化鉄の集積、第 5 層、褐灰色シルト質粘土、土師器が出土、第 6 層、にぶい黄褐色シルト質粘土に第 5 層ブロックが多く混じる、全体で層厚 72 cm であった。西側第 5 層と東側第 4 層、西側第 6 層と東側第 5 層が対応する。

確認調査終了後、基礎工法の変更があり、表層土壤改良が実施される基礎部分の工事立会を実施し、遺物を採取した(72 番)。

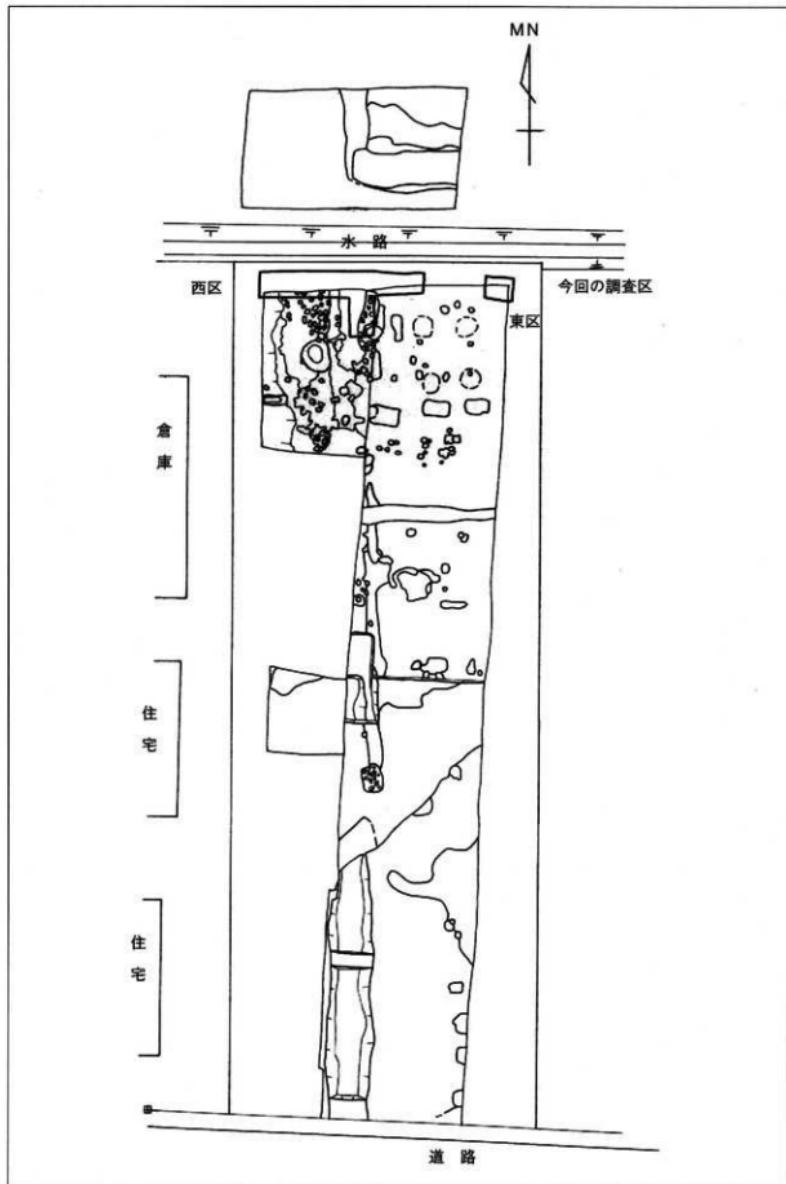
地点④

所在地 白石市字東大畠 108 番 1

調査要因 宅地造成 調査期日 平成 19 年 12 月 20 日 ~ 21 日

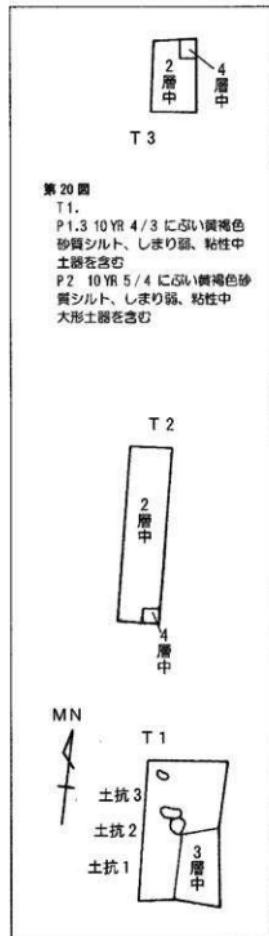
調査面積 462m² (掘削面積 9.7m²)

遺跡は JR 東日本東北本線白石駅から 0.6 km の位置にあり、現況は畠地である。周囲は宅地化が進んでおり、今回、宅地造成に伴う確認調査を実施した。今回の調査箇所は、平成 3 年(1991)11 月 ~ 12 月に白石市教育委員会が確認調査を実施した箇所である。この箇所からは、北に延びる溝、礎石建物跡 2 棟、掘立柱建物跡 1 棟などが発見されている。



第19図 地点④ 平面図 ($S = 1 / 200$)

今回、前回調査区北隣にコンクリート擁壁工事及び盛り土が実施されることになったため、遺構確認調査を実施した。この箇所は前回の調査において、水路沿いのため、調査範囲とならなかつた箇所である。調査の結果、前回の調査において、断面で確認されていた礎石抜き取り痕を平面的に確認した。基本層位は次のとおりである。第1層：10 YR 4 / 3 にぶい黄褐色シルト、25 ~ 40 cm、第2層：10 YR 5 / 1 褐灰色シルト、20 cm、この層直下が遺構確認面である。第3層：10 YR 5 / 6 黄褐色粘性シルト、8 cm、西側にのみ分布。第1、2層、第3層から土師器が出土した。第1、2層から外側は黒釉、内面は白濁釉の椀？（19世紀前半）、丹青色釉、あめ釉流し、鉢？（18世紀代）、肥前産染付椀？（江戸時代）、中国産白磁碗？（中世）、須恵器、弥生土器片（縄文のみ）、時期不明瓦片が出土した。



地点⑤

所在地 白石市字不澄ヶ池 100番1, 100番3

調査要因 住宅建設 調査期日 平成20年1月31日

調査面積 230.35m² (掘削面積 18.86m²)

遺跡はJR東日本東北本線白石駅から0.9kmの位置にあり、現況は宅地である。周囲は宅地化が進んでおり、今回、住宅建替えに伴う確認調査を実施した。確認調査トレンドチは擁壁、水道施設の構造物を避けて3箇所ほど設定した。

その結果、次のような遺構、層序を確認した。T1においては土坑3基が発見され、長軸は0.4~0.7mであった。土坑1と2は切り合っており、土坑2の方が新しい。土坑1には土師器細片、土坑2には土師器甕が口縁部を東に向けた状態で埋設されていた。基本層位は第1層、にぶい黄褐色シルト、層厚35cm、第2層、褐色砂質シルト、20cm、第3層、にぶい黄褐色砂30cm以上、3層上面が遺構確認面である。T2、T3においては遺構、遺物は確認されなかつた。基本層位はT1と類似しているが、T1の3層に対応する層の標高が高くなるようである。今回の調査結果により、大畠遺跡は東北本線西側においても確実に遺構が広がることが判明した。3層出土の土師器は7世紀後半から8世前半のものと考えられる。

第20図 地点⑤ 平面図 (S = 1 / 150)



第21図 弥陀内遺跡調査区位置図 (S = 1 / 2,500)

2 弥陀内遺跡

県遺跡番号 02263 遺跡略号 ミダウチ

所在地 白石市字十王堂前 71番

調査要因 居宅建築工事

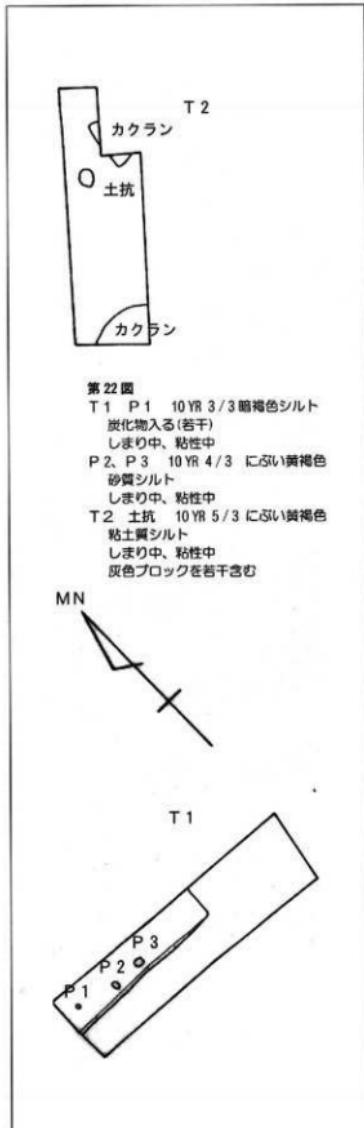
調査期日 平成19年4月24日

調査面積 781m² (掘削面積 35m²)

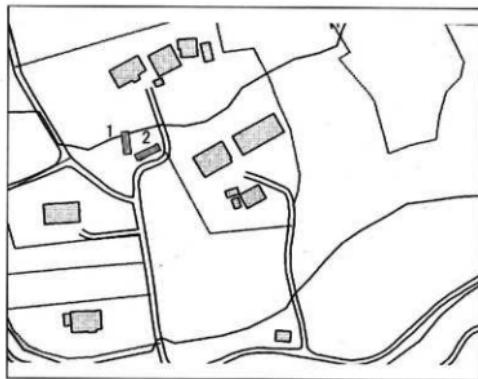
遺跡はJR東日本東北本線白石駅から北約0.9kmに位置している。今回の調査対象地の現況は更地である。周囲は農地、宅地となっている。

確認調査トレチは鉄道沿い、建築地、通路予定地を避け、事業地内に2箇所設定した。その結果、埋蔵文化財が確認された。T1では、第1層、黄褐色盛土、36cm、第2層、暗褐色シルト質砂、旧表土、14cm、第3層、にぶい黄褐色シルト質砂、土師器、中世陶器（瀬美産、12世紀、写真20の1）が出土、25cm、第4層、褐色砂、20cm以上となっていた。3層上面からピット3基が発見された。規模は20～30cmほどで、円形や方形基調のものである。ピット2からは瀬戸美濃産灰釉皿の口縁部破片（15～16世紀）が1点出土した。

T2では、第1層、盛り土、37cm、第2層、



第22図 弥陀内遺跡平面図 (S = 1 / 150)



第23図 下館遺跡調査区位置図 (S = 1 / 2,500)

3 下館遺跡

県遺跡番号 02307 遺跡略号 下ダテ

所在地 白石市福岡深谷字下館 111番地4

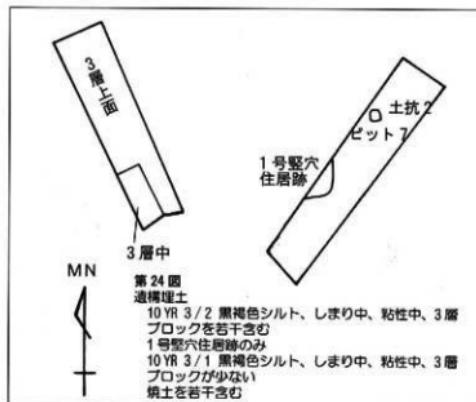
調査要因 住宅建築工事 調査期日 平成19年5月18日

調査面積 603m² (掘削面積 56.3m²)

今回、個人住宅建設に伴い確認調査を実施した。確認調査トレンチは住宅建築地、水路及び電柱沿いを避け2箇所設定した。

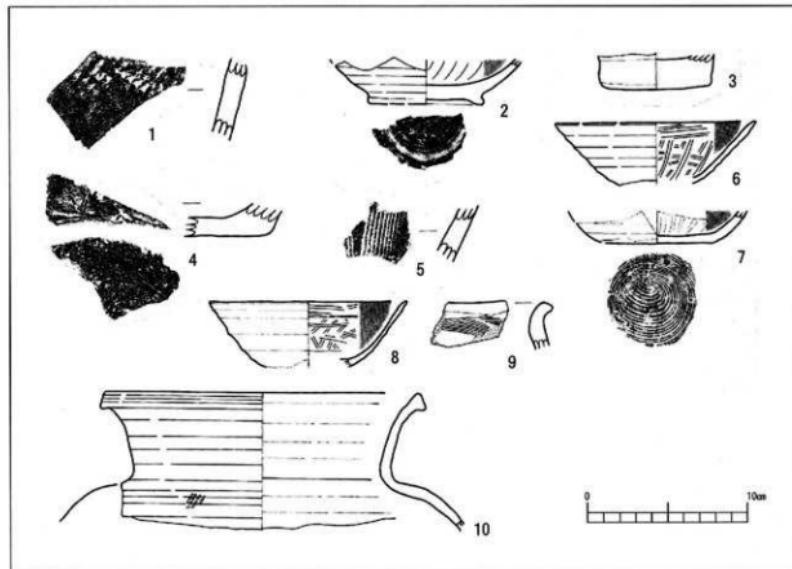
基本層序は次のとおりである。第1層・表土、暗褐色シルト、層厚40cm、第2層、褐色シルト、30cm、第3層、黄褐色粘土、礫を多く含む、20cm以上であった。第3層からは湧水が著しかった。

調査の結果、T1の2層から土鈴破片、T2では3層上面において竪穴住居跡1棟、土坑2基、

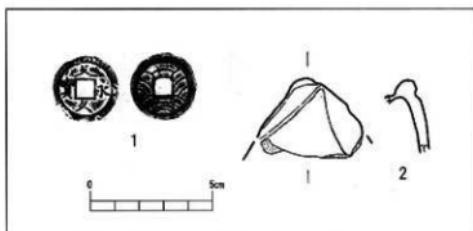


第24図 下館遺跡平面図 (S = 1 / 250)

黄褐色盛り土、25cm、第3層、にぶい黄褐色シルト質砂、20cm、第4層、褐色シルト質砂、16cm、第5層、黄褐色シルト質砂、12cm以上、土師器が出土した。なお、第4層は北東部でしか確認されていない。東北隅、南端では攪乱があり、廃棄物が含まれていた。5層上面からは楕円形のピット1基が発見され、規模は長軸60cm、短軸40cmであった。表土から産地、時期とも不明の陶器が1点発見された。



第25図 発見された遺物(1)



第26図 発見された遺物(2)

引用参考文献

- 津田優佳 2005 白石市文化財調査報告書第29集 市内遺跡発掘調査報告書I
 津田優佳 2006 白石市文化財調査報告書第30集 市内遺跡発掘調査報告書II
 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館

出土遺物観察表（1）

図版番号	出土位置、層位	種別	外面の特徴	内面の特徴	備考
第9図1	SD 01 埋土	土師器坏	ロクロナデ、底面は回転糸切	ロクロナデ	底径 8.4 cm、残存高 2 cm
第9図2	SD 03 埋土	土師器坏	ロクロナデ、底面は回転糸切	ロクロナデ	底径 5.5 cm、残存高 1.2 cm
第9図3	SD 01 埋土	須恵器壺	平行叩き	青海波文	
第9図4	SD 03 検出面	須恵器壺	平行叩き	青海波文、平行叩き	
第9図5	SD 03	須恵器	ナデ、付着物	丁寧なナデ	
第9図6	表土	土師器、台部分	ミガキ、孔	摩滅	
第9図7	表土	土師器、坏底面	糸切り痕、ヘラ書き	ナデ	
第9図8	SD 03	青磁碗	施釉	並釉、湾曲した2本の沈線	写真 17 の 2
第9図9	SD 03 埋土	三筋壺	施釉、沈線、複線	ナデ	写真 17 の 1
第9図10	SD 03	青磁碗	上半は施釉	施釉、平行沈線	写真 17 の 4
第9図11	SD 03 埋土	須恵器底部	自然釉	ナデ	
第9図12	SD 03 埋土	中世陶器壺	横ナデ、叩き目	横ナデ	写真 16 の 1
第9図13	SD 03 埋土	中世陶器壺	平行叩き	オサエ痕	写真 16 の 2
第9図14	SD 03 埋土	中世陶器壺	平行叩き	オサエ痕	写真 16 の 3
第9図15	SD 03 埋土	中世陶器壺	交差する平行叩き	オサエ痕	写真 16 の 4
第9図16	SD 03 確認面	中世陶器壺	平行叩き	オサエ痕	

出土遺物観察表（2）

図版番号	出土位置、層位	種別	外面の特徴	内面の特徴	備考
第10図1	SK 14	中世陶器壺	ナデ	ナデ、色調の違いあり	残存長 21.5 cm、残存幅 13.6 cm、厚さ 2.3 cm、写真 18
第10図2	SD 01	近世陶器、灯明皿	芯受け、黒釉	黒釉、底面はロクロ痕、黒色物質付着	口径 7.6 cm、底径 5.5 cm、器高 1.8 cm、产地不明
第10図3	SD 01 埋土	軒平瓦	直径約 1 cm の焼成後の穿孔	粘土の貼り付け痕	厚さ 1.8 cm
第10図4	SD 01 埋土	軒平瓦	左端に接合痕		厚さ 1.8 ~ 2.0 cm

出土遺物観察表（3）

図版番号	出土位置、層位	種別	外面の特徴	内面の特徴	備考
第11図1	SK 13、SK 14	中世陶器壺	受け口状口縁、横ナデ	横ナデ、ナデ	推定口径 19 cm、推定体部径 39 cm、残存高 21.5 cm、東北窯産
第11図2	SK 13、SK 14	中世陶器壺	ナデ	ナデ	推定体部径 65 cm、残存高 47.6 cm、東北窯産
第11図3	1号住居跡カマド	切石	ケズリ、黒褐色、薄紫色に変色している。側面には帯状に変色していない箇所あり		残存長 36.4 cm、幅 13.6 cm、厚さ 11.1 cm、スクリーン部分は割れ
第11図4	1号住居跡カマド	切石	ケズリ、黒褐色、薄紫色に変色している。		残存長 36.7 cm、幅 13.3 cm、厚さ 12.7 cm、写真 19
第11図5	1号住居跡カマド付近	切石	ケズリ、下半は黒褐色、薄紫色に変色している箇所あり		残存長 19.9 cm、幅 10.5 cm、厚さ 10.2 cm
第11図6	1号住居跡カマド付近	切石	ケズリ、下端は薄紫色に変色している箇所あり		残存長 33.5 cm、幅 16.7 cm、厚さ 8.8 cm

出土遺物観察表（4）

図版番号	出土位置、層位	種別	特徴	備考
第12図1	1号住居跡埋土	円盤型石器	縁辺に剥離がなされている。中央部の一部に擦痕がある。酸化鉄分が付着。長さ12.9cm、幅10.6cm、厚さ1.8cm、重量231.8g	
第12図2	1号住居跡埋土	砥石	中央に研磨痕跡がある。残存長8.2cm、幅4.1cm、残存厚さ2.6cm、重量105.7g	スクリートン部分は割れ、以下同じ
第12図3	1号住居跡埋土	石製紡錘車	中央に孔がある。擦痕が全体を覆っている。孔径0.6cm、最大径4.3cm、高さ1.7cm、重量53g	
第12図4	SD 03 埋土	砥石	4面に研磨痕跡がある。左上に酸化鉄分が付着している。残存長5.5cm、幅2.8cm、厚さ0.6~1.3cm、重量29.6g	
第12図5	1号住居跡埋土	擦痕のある円盤	斜めに擦痕がある。長さ4.5cm、幅3.8cm、厚さ1.5cm、重量27.7g	
第12図6	SD 01 埋土	石核	石英、長さ4.4cm、幅3.1cm、厚さ2.5cm、重量42.2g	
第13図1	SD 03 埋土	被熱扁平礫	被熱を受け、黒色、灰色化した礫。長さ16.2cm、残存幅12.2cm、最大厚2.2cm、重量408g	

出土遺物観察表（5）

図版番号	出土位置	種別	外面の特徴	内面の特徴	備考
第14図1	1号住居跡、埋土南西区	土師器坏	ヨコナデ、ミガキ、マツツ、明赤褐色5YR5/6	ミガキ、黒色処理、黒N2/	
第14図2	1号住居跡、埋土北中央区	土師器坏	ケズリ、マツツ、黄橙7.5YR7/8	マツツ（ミガキ、黒色処理）、灰N4/	推定口径15cm、器高4.4cm
第14図3	1号住居跡、埋土南西区	土師器坏	ヨコナデ、ケズリ、橙5YR7/6	ヨコナデ、ナデ、橙5YR7/6	口径14.6cm、器高5cm、写真21
第14図4	1号住居跡、埋土西区	土師器碗	マツツ、ハケメ、ケズリ、橙5YR6/6	ミガキ→黒色処理→マツツ、黒N2/	推定口径18cm
第14図5	1号住居跡、埋土北区	土師器小甌	ヨコナデ、ハケメ、灰黄褐色10YR6/2	ヨコナデ、ナデ、灰白10YR8/2	推定口径11.2cm
第14図6	2号住居跡、埋土	土師器高坏	マツツ、オサエ、ナデ、マツツ、橙2.5YR6/8	ミガキ、黒色処理、マツツ、ヘラナデ→マツツ、黒N2/	直径10.6cm、写真22
第14図7	1号住居跡、埋土南東区	土師器高坏	ケズリ、ヨコナデ、橙5YR7/6	ミガキ、黒色処理、ケズリ→マツツ、黒N2/	直径10.2cm
第14図8	1号住居跡、埋土	土師器高坏	透かし、ケズリ、橙2.5YR7/6	ミガキ、黒色処理、マツツ、ケズリ、黒N2/	直径5.6cm
第14図9	1号住居跡、埋土	ミニチュア	ナデツケ、底面は無調整、橙7.5YR7/6	輪積み痕、オサエ、オサエ、2.5YR6/6	口径5.5cm、器高3.5cm、底径3cm
第14図10	1号住居跡、埋土北区	ミニチュア	マツツ、オサエ、にぶい赤褐5YR5/4	ナデ、灰褐7.5YR5/2	推定最大径6.8cm、底径3cm
第14図11	1号住居跡、埋土東区	土師器甌	ハケメ→ヨコナデ、ハケメ→マツツ、浅黄橙10YR8/3	ハケメ、ヘラナデ、浅黄橙10YR8/3	推定口径17cm
第14図12	1号住居跡、埋土南区	土師器甌	ヨコナデ、ハケメ、橙7.5YR7/6	ヨコナデ、ヘラナデ、にぶい黄橙10YR6/3	推定口径21cm
第14図13	1号住居跡、埋土南区	土師器甌	ハケメ、無調整、木葉痕、暗褐7.5YR5/1	マツツ、ヘラナデ、浅黄橙7.5YR8/3	底径5.5cm
第14図14	1号住居跡、埋土東区	土師器甌	ハケメ、木葉痕、暗褐7.5YR3/3	ヘラナデ、明赤褐5YR5/4	底径5.4cm

出土遺物観察表（6）

図版番号	出土位置	種別	外面の特徴	内面の特徴	備考
第15図1	1号住居跡、埋土南、南東、東区、SD 03 埋土、南区	土師器壺	ハケメ→ヨコナデ→マツメ、ハケメ、浅黄橙 10 YR 8 / 3	ハケメ→ヨコナデ→マツメ、輪模み→ヘラナデ、にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	推定口径 14 cm、推定体部径 20.8 cm、写真 23
第15図2	1号住居跡、埋土西区	土師器壺	ハケメ→ヨコナデ、ハケメ→ケズリ、灰黄橙 10 YR 6 / 2	ヨコナデ、ヘラナデ、黒N 2 /	瓶の可能性あり、推定口径 23.2 cm
第15図3	1号住居跡、埋土北区	土師器瓶	ヨコナデ、ハケメ→ケズリ、橙 5 YR 6 / 6	ヨコナデ、ミガキ、ケズリ→7 / 6	推定口径 28 cm
第15図4	1号住居跡、埋土南東区	土師器瓶	ハケメ、ケズリ、にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	ミガキ、ケズリ、にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	推定底径 10 cm
第15図5	1号住居跡、貼床東側、SK 02	土師器环	ロクロナデ、ケズリ、橙 7.5 YR 7 / 6	ロクロナデ、橙 7.5 YR 6 / 6	推定口径 10.2 cm、推定器高 3.7 cm
第15図6	1号住居跡、埋土東区	須恵器壺	ロクロナデ、灰 7.5 Y 6 / 1	ロクロナデ、灰 5 Y 6 / 1	推定口径 16 cm
第15図7	1号住居跡、埋土東区	須恵器高坏	ロクロナデ、円窓2対、灰 7.5 Y 6 / 1	ロクロナデ、灰 10 Y 5 / 1	直径 3 cm、写真 24
第15図8	2号住居跡、埋土	土師器环	ヨコナデ、軽いケズリ、橙 7.5 YR 7 / 6	ミガキ、橙 5 YR 6 / 6	口径 16 cm、器高 3.9 cm
第15図9	2号住居跡、埋土	縦支脚	ナデヅケ、マツメ、明褐色 7.5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	残存高 10.8 cm、最大径 3.9 cm、中実

出土遺物観察表（7）

図版番号	出土位置、層位	種別	外面の特徴	内面の特徴	備考
第25図1	弥陀内遺跡、T 1、3層	中世陶器壺か壺	叩き目	ミガキ	渥美産、写真 20 の 1
第25図2	地点②大畑遺跡 T 1、2層	高台付坏	ロクロナデ、底面は回転糸切り	黒色処理、ヘラミガキ	底径 7.7 cm、残存高 2.8 cm
第25図3	地点③大畑遺跡、T 1、1層	土師器壺	荒いナデ	ナデ	底径 6.5 cm、残存高 2.2 cm
第25図4	地点③、7 2番大畑遺跡、表土	中世陶器壺か壺	ナデ	ナデ	在地産、写真 20 の 2
第25図5	7 7番大畑遺跡、T 1、1層	近世陶器、攢り鉢	一部に鉄釉	擦り目	岸墓？写真 20 の 3
第25図6	下館遺跡、1号竪穴住居跡埋土、	土師器坏	ロクロナデ	黒色処理、ヘラミガキ	口径 12.1 cm、残存高 3.8 cm
第25図7	下館遺跡、1号竪穴住居跡埋土、	土師器坏	ロクロナデ、底面は回転糸切り	黒色処理、ヘラミガキ	底径 6.6 cm、残存高 2 cm
第25図8	下館遺跡、1号竪穴住居跡埋土、	土師器坏	ロクロナデ	黒色処理、ヘラミガキ	口径 12 cm、残存高 4 cm
第25図9	下館遺跡、表探	土師器壺	ロクロナデ	横ナデ	
第25図10	下館遺跡、土坑1埋土	須恵器壺	叩き目→ロクロナデ	叩き目→ロクロナデ	推定口径 19.8 cm、残存高 8.3 cm

出土遺物観察表（8）

図版番号	出土位置、層位	種別	特徴	備考
第26図1	田中遺跡、T 1、1層	銅貨	文久通宝、1 1 波、直径 2.7 cm、孔径 0.7 cm、重量 3.5 g	
第26図2	下館遺跡、T 1、2層	土鈴	残存長 3.3 cm、残存幅 4.2 cm、重量 9 g	

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはくつちょうさほうこくしょさん								
書名	市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ								
副書名									
卷次									
シリーズ名	白石市文化財調査報告書								
シリーズ番号	第31集								
編著者名	日下和寿、佐藤敏幸								
編集機関	白石市教育委員会								
所在地	〒989-0206 宮城県白石市字寺屋敷前 25 番地 6 TEL: 0224(22)1343								
発行年月日	西暦 2008 年 3 月 31 日								
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
		市町村	遺跡番号	°' "	°' "				
大烟遺跡	白石市字東大烟 ・字不澄ヶ池 ・字堂場前	04206	02262	38°00'23"	140°37'48"	20060308 ~ 20070329	115.00	個人住宅 建設	
		04206	02262	38°00'33"	140°37'41"	20070604 ~ 20070605	170.00	住宅地造 成	
		04206	02262	38°00'38"	140°37'45"	20071112 ~ 20080209	31.00	共同住宅 建設	
		04206	02262	38°00'30"	140°37'42"	20071220 ~ 20071221	9.70	宅地造成	
		04206	02262	38°00'33"	140°37'34"	20080131	18.86	個人住宅 建設	
弥陀内遺跡	白石市字十王堂前	04206	02263	38°00'42"	140°37'44"	20070424	35.00	居宅建築 工事	
下館遺跡	白石市福岡深谷字 下館	04206	02307	38°01'49"	140°37'02"	20070518	56.30	個人住宅 建設	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
大烟遺跡	散布地 ・官衙	弥生・奈良・平安 ・中世・近世・近代	掘建柱建物跡 2、堅 穴住居跡 4、土坑 18, 溝跡 3、ピット 4, 遺物包含層 2	土師器、須恵器、石 器（礫石器、砥石、 紡錘車）、切石、鉄器、 鐵滓、中世陶器、（古 瀬戸、鬼沙門・赤川、 東北、白磁、青磁、 三筋壺、中国産白磁？）、 近世陶磁器（大堀相馬、 肥前）、寛永通宝、近 代陶磁器（洋食器）、 弥生土器					
弥陀内遺跡	散布地	奈良・平 安・中世	ピット 3 基、土坑 1 基	中世陶器（瀬美、瀬 戸美濃）、土師器	関東系土師器、12 世紀代陶磁 器が出土した。土師器は 7 世 紀～8 世紀				
下館遺跡	散布地、 城館跡、 製鉄	奈良、平 安	堅穴住居跡 1 基、土 坑 2 基、ピット 7 基	土師器、須恵器、土鈴	12 世紀代の陶器が出土した。 土鈴が出土した。				
要約									

写 真 図 版



写真1 大烟遺跡 地点① SD01.02 (東から)



写真2 大烟遺跡 地点① SD03 (南から)

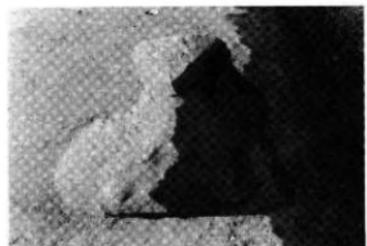


写真3 大烟遺跡 地点① SK06 完壊状況 (西から)



写真4 大烟遺跡 地点① SK01 断面 (西から)

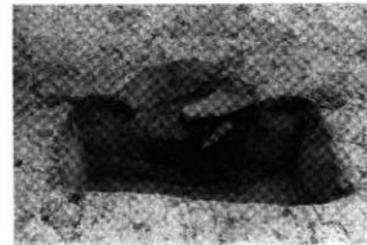


写真5 大烟遺跡 地点① SK13 断面 (南から)



写真6 大烟遺跡 地点① SK14 断面 (北から)



写真7 大烟遺跡 地点① 1号竪穴住居跡（南から）



写真8 弥陀内遺跡 T2 全景（南から）



写真9 下館遺跡 T2 東壁

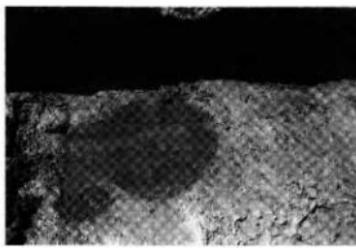


写真10 下館遺跡 T2 土坑2（南から）



写真11 大烟遺跡 地点② 堀立柱建物跡（南から）



写真12 大烟遺跡 地点② 1号竪穴住居跡



写真13 大烟遺跡 地点③ トレンチ全景（東から）

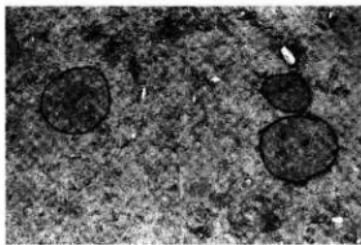


写真14 大烟遺跡 地点③ ピット検出状況



写真15 大烟遺跡 地点③ ピット2

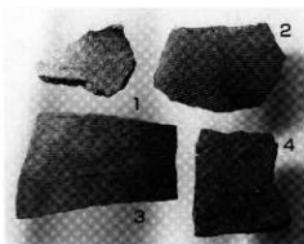


写真16 大烟遺跡 出土遺物（1）

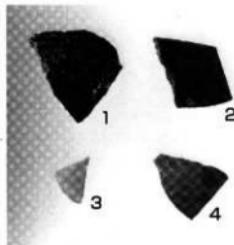


写真17 大烟遺跡 出土遺物（2）



写真18 大烟遺跡 出土遺物（3）



写真19 大烟遺跡 出土遺物（4）

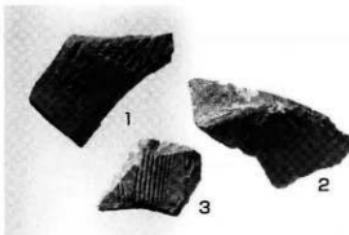


写真20 出土した陶器類



写真21 大烟遺跡 出土遺物（5）



写真22 大烟遺跡 出土遺物（6）

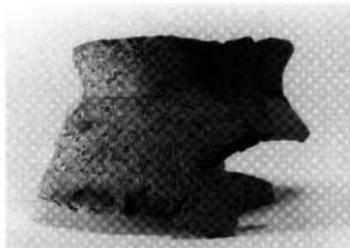


写真23 大烟遺跡 出土遺物（7）



写真24 大烟遺跡 出土遺物（8）

白石市文化財調査報告書 第31集
市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ

平成20年3月28日印刷

平成20年3月31日発行

編集・発行 白石市教育委員会

〒989-0206 白石市字寺屋敷前25番地6

電話：0224(22)1343

印 刷 (株)不忘印刷所

〒989-0273 白石市字中町 25

電話：0224(26)2070

